

<p style="text-align: center;">反応装置工学 (Advanced Chemical Reaction Engineering)</p>	<p style="text-align: center;">1 年・後期・2 単位・選択 化学工学専攻・担当 直江 一光</p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 B-2, D-1</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準〕 (d-1), (d-2a)</p>
<p>〔講義の目的〕 講義と演習からなる。まず、熱と物質の移動を伴う化学反応速度（異相系反応）の解析法を理解する。次に、反応速度論に基づいた異相系反応装置の設計法を解説する。</p>		
<p>〔講義の概要〕 講義と演習からなる。まず、熱と物質の移動を伴う化学反応速度（異相系反応）の解析法を理解する。次に、反応速度論に基づいた異相系反応装置の設計法を解説する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 反応工学の基本知識を必要とする。</p>		
<p>〔到達目標〕 気固系と気液系の反応速度解析と装置設計の手法を習得し、設計式を解く計算技術を習熟する。まず、物質収支の取り方の基本を理解し、微分方程式の立て方を習得する。次に、移動現象と化学反応が同時に起こる場合の総括反応速度の解析法を理解する。</p>		
<p>〔自己学習〕 目標を達成するためには、授業以外にも予習復習を怠らないこと。</p>		
<p>〔評価方法〕 成績評価は、試験 (60%)、演習 (40%) で行う。</p>		
<p>〔教科書〕 ノート講義</p> <p>〔補助教材・参考書〕 O. Levenspiel “Chemical Reaction Engineering”(3rd ed.) 橋本健治著「反応工学」(改訂版)、培風館</p>		
<p>〔関連科目〕 化学工学 II, 反応工学, 化学反応工学</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	序論	異相系反応の種類と分類	
第2週	反応工学の基礎（1）	反応工学の基礎の復習	
第3週	反応工学の基礎（2）	反応工学の基礎の復習	
第4週	反応工学の基礎（3）	反応工学の基礎の復習	
第5週	反応器設計の基礎式	反応器の設計方程式（1）	
第6週	反応器設計の基礎式	反応器の設計方程式（2）	
第7週	流通反応器の流体混合	滞留時間分布関数	
第8週	流通反応器の流体混合	非理想流れのモデル（1）	
第9週	流通反応器の流体混合	非理想流れのモデル（2）	
第10週	気固系触媒反応（1）	球形触媒の有効係数	
第11週	気固系触媒反応（2）	有効係数に及ぼす触媒形状の影響	
第12週	気固系触媒反応（3）	有効係数に及ぼす温度の影響	
第13週	気固系触媒反応（4）	充填層反応装置の設計方程式	
第14週	最近のトピックス	反応工学分野における最近のトピックスを紹介する。	
第15週	最近のトピックス	反応工学分野における最近のトピックスを紹介する。	
期末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）